

「アオギス」の繁殖地、本州で見つかる！ 一下関の木屋川河口で発見された絶滅危惧種アオギスー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2025-07-29 キーワード: 作成者: 重田, 利拓 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014990

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



研究紹介

「アオギス」の繁殖地、本州で見つかる！ —下関の木屋川河口で発見された絶滅危惧種アオギス—

重田 利拓

前号で、アオギス *Sillago parvisquamis* (図1) はレッドデータブック(水産庁版)に掲載される絶滅危惧(きぐ)種であること、干潟に強く依存する生態を持つことから「干潟再生のシンボル」とされることなどを解説した。2006年8月、広島県宮島で開催された第14回瀬戸内海研究フォーラムにおいて、瀬戸内海の山口県下関市木屋(こや)川河口に「アオギス」が生息すること、その繁殖を確認したことを発表した。これは、現在著者らが瀬戸内海研究会議から受けている研究助成金で実施した調査の成果の一部である。

調査地の選定に当たり、著者らの調査により、瀬戸内海西部の数カ所で本種を採集していたことから(図2)、下関の木屋川河口周辺も生息の可能性が高いと判断。現地での漁業者や遊魚者への聞き取り調査により、本種の生息に関する有力な情報を得た。読者の方々は「海峡の街、下関にアオギスが棲めるような干潟があるの?」とお思いかも知れない。実は下関の瀬戸内側には、木屋川河口を中心に大きな干潟が存在するのである(図3)。干潮時、河口から沖合の干潟先端まで最大4 kmが干出、周辺を含めると1000 haにもおよぶ広大な砂泥質の干潟で、サキグロタマツメタ、センベイアワモチ、カブトガニなど絶滅が危惧される希少な底生生物が現存することでも知られる。たいへん広大な干潟のため、自ら採集するとなるとポイントを絞りかねる。結局、地元漁業者に事情を話して標本採集を依頼し、連絡を待つことにした。

しばらく後の2006年5月20日、依頼していた漁業者から「アオギスが4尾獲れたよ。」との吉報が届いた。直ちに現地へ赴き標本を確認したところ、それらは全て全長30cmを越える大物のアオギスであった。その後、2006年6月10日夜から11日早朝に獲れた3個体を追加し、全長28.5~33.8 cmの計7個体の標本を確保。いずれも雌魚で、年齢は満2~5歳であった。これにより、木屋川河口に本種が生息することが初めて確認された。

次に同所における繁殖を確認するため、各個体の卵巣組織標本を作製し生殖細胞の状態を調べてみた。最初に得られた5月20日の4個体は、いずれも十分成熟した繁殖雌魚ではあったが、産卵の直前や直後の状態ではなかった。これら個体の今季の初産卵は数日先か、あるいは既に産卵を開始したものの当日は産卵の休みの日であったようで(注:本種は産卵期間中に何度も産卵する)、残念ながら産卵の決定的証拠は得られなかった。ところがあとの3個体は、卵母細胞が吸水し排卵中であるもの、さらには排卵がほぼ終了したものなど、まさに採集当夜(6月10日夜)に産卵する産卵直前の個体であった(図4)。これにより、同河口に本種の繁殖場が存在することも明らかとなった。

アオギスの繁殖は近年では豊前海で知られるのみであり、本州最後の生息地として知られる宇部の厚東川河口では成魚1標本が得られているのみ(松井, 私信)で、繁殖は確認されていない。そのようなわけで、木屋川河口は、我が国で2カ所目の、本州では唯一の繁殖確認場所となった。

最近、水産生物の増産や絶滅危惧種の保護を目的とした自然再生事業が各地で行われるようになってきた。ところが、本種はその存在すら知られていない場合があり、土木工事を伴う大規模な干潟の改変などが本種の生存を脅かすのではないかと心配している。今回のフォーラムでの発表には、山口県や下関地域の方々に本種の存在を知ってもらったうえで、水産業と共存しながら、干潟環境の再生を図って欲しいとの筆者らの思いも込められている。豊前海中津干潟の大きな集団と比べると、木屋川河口の集団は、稀に個体が混獲される程度のごく小規模なものではある。だが、今回の発見により、複数地域で個体群を併存させるなど、絶滅の回避に向けた選択肢が広がることは確実である。

アオギスたちの棲むこの干潟は、源平合戦、明治維新など多くの歴史的財産に勝るとも劣らない、地域の大きな生物学的財産である。これからも大切にされることを願いたい。

謝辞

下関・王喜漁協の皆様、瀬戸内海研究会議、元九州大学・松井誠一先生、遊漁者の皆様など、お世話になった多くの方々に、厚くお礼申し上げます。

(栽培資源部 資源増殖研究室)



図1. 木屋川河口で採集された絶滅危惧種アオギス。木屋川河口産標本No.1, 2006/5/20 採集, 全長33.8 cm, ♀, 満5才。アオギスは腹鰭, シリ鰭がうす黄色であり, これらが白色のシロギスとの識別は容易。

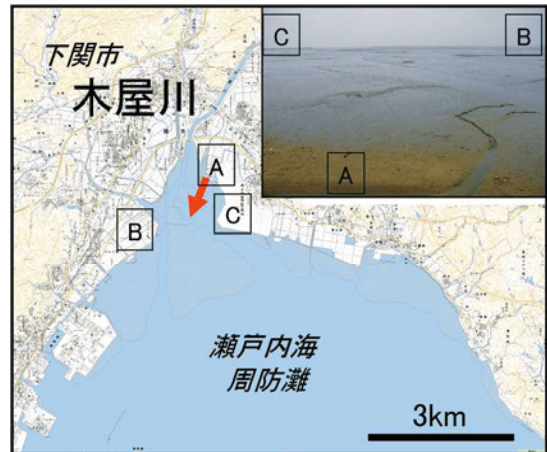


図3. 木屋川河口の干潟 (図2の赤四角部分を拡大)。

写真は2006/4/16の干潮時にAより南南西方向を撮影。A:白崎。西暦2世紀末, 神功皇后が三韓征討の際に多数の軍船を率いてたむろしたとされる。B:乃木浜総合公園。あの乃木大将に由来。C:海上自衛隊小月航空基地。干潟の先の海が見えないほど, 広大な干潟が広がる。アサリの主力産地の一つであったが, 全く獲れなくなって久しい。地図は国土地理院発行の地形図を使用。



図2. 標本に基づくアオギスの生息地。

既知の生息地は, ①豊前海, ②大分県守江(もりえ)湾, ③山口県宇部市厚東川(こう)河口, 鹿児島県吹上浜の計4ヵ所。■大:既知の生息地で大きな集団があるところ, ■小:既知の生息地で稀に採集される。著者らの調査により, 山口湾, 山口県平生(ひらお)湾, 木屋川河口での生息, 木屋川河口での繁殖が判明した。●小:新たに発見された生息地で, 稀に採集されるところ。★:繁殖地。

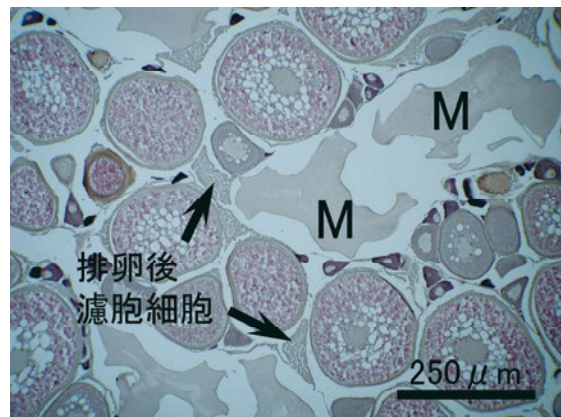


図4. 産卵直前のアオギスの卵巣組織横断面像。

木屋川河口産アオギスNo.6, 2006/6/11 採集, 全長28.5 cm, ♀, 満2才。吸水した卵母細胞(M)と新しい排卵後濾胞細胞がともに存在し, 卵巣腔への排卵が認められたことより, まさに産卵直前であったことが分かった。